

# Weblogシステムを使った英語ライティング教育の可能性に関する先行研究

## A Pilot Study on the Possibility of Applying Weblog Systems to the English Writing Class

竹 野 茂

本研究は、大学の英語必修授業の英作文指導にWeblogというネットワーク・システムなどを利用することにより、英作文力向上に寄与できるかどうかの可能性について述べたものである。近年爆発的にその数を増やしているWeblogサイトを構築し、英作文授業に応用することによって得られる学習効果についても言及する。また、様々なCMS（Content Management System）の特徴を検証し、英語学習に適したシステム作りの観点からも考察する。

実際に、宮崎公立大学の1年生に、電子的なネットワーク・システムを応用し、授業展開した結果、様々な問題点とともに有効性を検証しうる結果を得ることができたと確信する。今後、様々な英語授業の中で、今回の応用例を深め、検証を重ねていくことにより、一層可能性を広げられる萌芽的要素を発見できた。

キーワード：Weblog、英作文、パラグラフ・ライティング、CALL（コンピュータ支援による語学学習）、Criterion

### 目 次

- I はじめに
  - II 研究環境
    - 1 WEBLOGとは
    - 2 主なCMSの比較と選択したシステム構成
  - III 研究方法
    - 1 指導期間および実験対象
    - 2 授業目標
    - 3 授業実践
    - 4 考察
  - IV 研究成果
  - V まとめ
- 参考文献

## I はじめに

宮崎公立大学ではCALL (Computer-Aided Language Learning) システムが平成14年度から導入され、ネットワーク的にも様々なサーバが導入され、ネットワークを利用した語学学習環境も、整いつつある。

2002年頃から、Weblogに代表されるようなウェブサーバ上に簡単に構築できるCMS (Content Management System) の発達が目覚ましく、様々な用途で利用されるようになった。

まず、CMSの特徴を述べておこう。CMSは、従来のホームページにかわって、個人用のポータルサイトを作成でき、ユーザ登録によって、ユーザを識別し、内容の公開や非公開が簡単に設定できる。また、ホームページ上から投稿、修正、加筆ができ、サイト更新が便利であること、データベースを用いるためサイト管理や記事の再利用などデータの加工が容易であることなどが特徴としてあげられる。

CMSには、(1) XOOPSのような総合型サイト構築CMS、(2) WIKIのようなコラボレーション文書サイト型CMS、そして(3) WEBLOGのような日記型サイト構築用CMSなどいくつかのものに分類できる。サーバ上のデータベースを利用し、ユーザ登録認証によってユーザ管理を行い、セキュリティに配慮している共通した特徴を備えている。データベース利用については、上記(1)、(2)のシステムは必ず利用しなければならないが、(3)についてはデータベースを利用するものとCGIによって運営し、特にデータベースを用いないものもある。また、(1)型にはMOODLEとよばれる様々な学習のために特化した総合サイト構築用のものも利用されてきている。

本研究では、WEBLOGというシステムを取り上げ、そのシステムを利用した英語ライティング教育の可能性を探り、効果的な英作文指導法を模索していくものである。WEBLOGシステムを選択した理由として、上記(1)型や(2)型のCMSに比べシステムがシンプルであり、ユーザが複雑な作業を強いられることが少なく、記事の投稿に特化されたシステムで、投稿が比較的簡単であることがあげられる。また、投稿記事に対して、不特定多数からのコメントがつけられることがあげられる。学生が英作文を投稿し、それに対して他の学生がコメントすることにより、一方通行的英作文を発信型英作文に変え、意見を構築し、発表し、反応を得られることの喜びを学生が感じ、モチベーションを高められるのではないかという期待からこのシステムを選択した。

## II 研究環境

### 1 WEBLOGとは

前章で、CMSについて簡単に触れたが、今回利用したWEBLOGについてももう少し詳しく言及

してみる。

Weblogという言葉は、Rebecca Bloodによると1998年頃Jorn Bargerが自身の運営するサイトの種類を説明するのに使ったのが最初で、Cameron Barrettのエッセイ*Anatomy of a Weblog* (1999)によって世に知られるようになったようである。その後間もなくして、WeblogはBlogと短縮されるようになったとのことだ。そして、最初Weblogの多くは、「1日を通して更新され、その管理者のウェブサーフィンのパターンのリアルタイムな記録のようなものを提供した。」ようである。ウェブブラウザのあるコンピュータを利用できれば、コンピュータ画面上にあるフォームに入力しボタンをクリックすることで、誰もがWeblogを作成できるサービスが始まり急速に勢いを得て流行に至ったらしい。

日本では、2002年後半から目にするようになった。筆者自身2002年の暮れに最初のWeblogサイトの構築を試みた。しかし、その当時そのシステムの利用方法については、筆者が詳しくなくどのようなトレンドであるのかを見極めることができなかった。だが、その発展性は直感的に感じ取ることができた。

筆者は長年ホームページの作成に関わってきた経験上、サイトを頻繁に更新することの煩わしさを理解していたし、デザインと内容に気を配りサイトを更新する作業に多大な時間を要することは身をもって経験していた。そこで、内容の更新が容易にできデザインも一定のものを用意すれば、後はこまめに更新内容を書いていけばよいようなものが出現してくれないかと心待ちにしていた。それがWeblogに注目するきっかけであった。その後、サイト全体をモジュールと呼ばれる部品を追加することによって更新できるCMS（コンテンツ管理システム）であるXOOPSに出会ってさらにサイト更新に要する時間を短縮することができるようになった。

サーバさえ用意できれば、WeblogでもXOOPSでも5分程度でサイトを構築できる。筆者はこれまで自分自身でLinuxサーバの構築やMacOSXサーバの構築を行ってきており、そのノウハウを生かして既存のサーバにWeblogを構築した。

また、学生の英作文をストックし、添削できるように別にデータベースサーバを立ち上げた。このデータベースもまた既存のMacOSXサーバ上にFileMakerPro Unlimitedを利用して、提出用データベースを構築した。但し、こちらはパスワードを設定し、筆者の授業を受けている学生以外はアクセスできないように制限をかけているので、間違いのひどいものも公開せずにオンラインでの訂正が可能ないようにした。チェックを受けずに自信のない英文を公開することへの抵抗感があり、非公開の訂正システムというワンクッションを入れることにより、抵抗感を和らげ、自信の構築に寄与することを念頭に置いて、このシステムを考えた。

## 2 主なCMSの比較と選択したシステム構成

CMSには様々な種類が存在するため、4月から夏休みまでの間をこれらのシステムのどれが適切かを見極めるために当てた。手始めにMovableTypeというシステムを導入してみた。解説書

もそろっていて手頃なものであったためである。開発バージョンであったためバージョンアップを繰り返さなければならなかったし、完成バージョンになると費用が発生したため、実際の運用には使用しなかった。Nucleus Weblogシステムを実際には使用したが、マイナーなシステムであったので解説書等がそろっておらず、オンラインの文書をたよりにシステムを構築しなければならなかった。Nucleusについての解説書が出始めたのは、この研究がかなり進行してからのことであった。

表1：システム決定までに試してきたCMS一覧

CMS名	特徴その他	CMSのタイプ
MovableType	Weblog構築システムの代名詞ともいえる代表的システム。要SQLデータベースサーバ。	Weblog
Nucleus	少しマイナーであるが、多機能である。ユーザ登録が充実している。要SQLデータベースサーバ。	Weblog
sb	データベースを使用しないもので、シンプルな作りであるが、データベースを使用しないため、データの再利用には不適切。	Weblog
XOOPS	総合的CMSサイト構築ツール。 総合的なホームページ運営に最適。	総合型
MOODLE	学習用CMSサイト構築ツール。 シラバスの提示等ができ、授業管理には適している。	総合型
PukiWiki	コラボレーションCMSサイト構築ツール、グループ活動で一つの文書を作成するには、適している。	コラボ型

Nucleusを選んだ理由は、1つのシステムで、ユーザー一人ひとりが独立したユーザとして記事が投稿できることであった。多くのBlogは管理ユーザー一人が記事の投稿ができ、その他のユーザはコメントしかできない。学生一人ひとりに記事を投稿させようとする、学生の人数分Blogを用意しなければならず、サーバの負荷も増すことになる。その点、Nucleusは一人の管理者が多数のユーザを統括し、それぞれのユーザが独立してBlog投稿が出るメリットがあった。また、管理者ユーザの設定に加え、一般ユーザのユーザ名パスワードを管理ユーザが設定できるという利点があったからだ。管理ユーザで行う設定はかなり複雑なもので、見栄えもカスタマイズできたが、高度なレベルのウェブサイト構築の知識が必要で、少し戸惑った。サーバ管理初心者にはあまり勧められないものである。しかし、本研究の目的達成のための設定ができるのはNucleus

しかないという結論に達したため、無理にでも使用する必要があった。こちらはMovableTypeとは違い完全にGPLに準拠し、つまり、いわゆるフリーソフトであり、費用は発生しないものであった。

いわゆるフリーのシステムに加えて、一人当たり1,500円の支出が必要ではあるが、ETS（English Testing Service：TOEFLのテスト開発・実施を行っている権威ある団体）が作成・運営しているCRITERIONを220名の1年生に使用させることにした。ウェブブラウザからETSのサーバにアクセスし、そこでTOEFLのエッセイテスト用の課題を管理者が設定し、その課題（テーマ）にそったエッセイを書き、サーバに送ることにより、評価を瞬時に得ることができるシステムである。英作文の評価にはかなりの時間を要するが、このシステムを使うことにより、素早いレスポンスで、学生はどこに気をつけてパラグラフを構築すればよいかの評価がくだされる。モチベーションを高める上では優れたシステムといえよう。

以下が、本研究で最終的に採用したシステムの表である。

表2：採択したシステム

システム名	用途
Nucleus Weblog	学生が書いた英文の公開用として使用、他の学生によるコメント・評価にも使用。
FileMakerProデータベースサーバ	学生が書いた英文の教員への提出用として使用。教員の訂正、コメント用として使用。
CRITERION	ETSが運営しているウェブベースのTOEFLエッセイテスト練習用のシステム。

このほかにXOOPSサイトを構築することも行った。このモジュールの中にWeblogモジュールも存在したので、学生の英作文指導に利用できるのではないかと考えたからだ。同様にMOODLEサイトも構築してみた。結果的に今回の研究では使用しなかったが、なかなかよくできたシステムで今後何らかの方法で、用途を限定して利用できるのではないかと考えた。今回使用を見送った理由は、様々なモジュールがあり、学生にとっては使用方法が複雑になり、使用方法の指導に時間を要しすぎる点が上げられる。情報科目で何らかの指導がなされ、システムになれているのであれば、使用する価値は十分にあるシステムだと評価している。

実際の英作文授業での指導は、後期（第2セメスタ）の後半11月から前述のNucleus WeblogとFileMakerProデータベースを使用して行うことになった。その際、教室を本学のCALL教室を使用した。本学のCALLは、2教室ありそれらはコンピュータの台数の違いこそあればほぼ同じ規

模で同じ環境といってもよい。(以下の表3参照)

表3：CALL講義室設備

設備	CALL第1講義室	CALL第2講義室
教員用コンピュータ台数	2台	2台
学生用コンピュータ台数	64台(CDRW)	60台(DVD-RAM)
マルチメディア施設(内訳は以下) DVD、CD、LD、ビデオ、テープ再生設備 音響設備(ワイヤレスマイクを含む)、 液晶ビデオプロジェクタ、OHC等	一式	一式
教材提示用液晶モニタ	32台	32台

この2教室は、情報講義室1室とコンピュータの機器構成を同一にすることにより、語学学習の時間にコンピュータ操作を教えなければならない無駄を省くことを考慮してある。多くの大学で英語や語学の時間の数時間を使ってコンピュータ操作を教えているので、その時間が語学学習にとっては無駄になるのである。この点本学では情報科目との密なる連携により、コンピュータ操作は情報で行い、語学学習に集中できるように考えられている点は他大学よりも優れたカリキュラムになっている。

### Ⅲ 研究方法

#### 1 指導期間および実験対象

前章であげたシステムを利用して英作文指導を行った期間は、2004年11月から2005年2月までであった。Criterionに関してはこの期間終了後も継続して、使用できる環境にあったが、今回は、必須条件としてあげたわけではないので、考察のための参考程度にとどめておく。

実験対象は筆者が平成16年度後期に担当していた英語B(必修科目の英語：週3時間のうちの1時間で英作文モジュール)の1クラス(基礎クラス)の学生25名を対象として研究を行った。

#### 2 授業目標

授業目標としては、Weblogシステム上で文字ベースのコミュニケーションを主眼に置いた。以下に詳しく述べるが、意見を公開し、その意見に対するレスポンスをウェブ上で行ないながらコミュニケーション活動を行い、最終的には議論に発展することを目指した。

また、後半の課題でブックレポートまたは意見表明をクラスメートの前で口頭で行う、いわばスピーチに近い形のプレゼンテーションを行うことも1つの目標として掲げた。

### 3 授業実践

筆者が担当していた英語Bの1クラスの学生25名に、10月から11月の授業で英文パラグラフ・ライティングの基礎指導を行った。その際、課題として1週から2週に1回のペースで新聞記事を1つ選択し、その記事の要約（日本語でも英語でも可）を書き、その記事に対する意見を英文でパラグラフを意識して書かせた。

当初、ノートを提出させ添削して返していたが、11月からこの作業をWeblogシステムとオンライン・データベース・システム上で行うこととさせた。その際、教室を普通教室からCALL第2講義室に変更し、3つのシステムの使用方法について指導を行った。その指導は、以前ノートを提出し、添削済みの英文を入力させながら、実地訓練的に行った。

Weblogへの投稿公開の手順は以下のようなものである。

1. まず、FileMakerProデータベース・サーバに各自の課題（要約と英作文）を入力させる。
2. 教員がその課題をサーバ上（ウェブブラウザ経由）でチェックし、訂正、コメントを加える。
3. 教員の訂正に基づき、Weblogシステムにコピー&ペーストし公開する。
4. 学生は公開されたクラスメートの英文を読み、各自の意見を加えコメントする。
5. 12週の授業の最終的なアウトプットとして、1冊の本を読み、その概要（日本語）と英語の意見文（A4 1枚程度）を提出し、クラスメートの前で発表することを課した。

### 4 考察

Weblogシステム上で意見表明を行うこと自体にも意味があるが、公開することによって、コメントやフィードバックを受けられるというメリットがあり、なかなか口頭でのコミュニケーションが難しい学生でも、抵抗感やストレスを減少させるメリットが期待できるという考え方に基づいた。実際、筆者が担当したクラスは、英語の基礎クラスであったので、英語に対する抵抗感を持った学生がいることを前提にしていたため、このような方式を採った。直接、Weblogへの投稿という形ではなく、一度非公開のデータベース・システムを使用したことにより、抵抗感を和らげられ、学生には受け入れられやすかった。

また、ウェブ上に自分の英文を公開することにより、クラスメートだけでなく、不特定多数からの思いもよらないコメントを期待した。しかし、後者の期待は実現しなかった。

コンピュータを使用することにより、普通教室だけの授業よりも活性化できた。学生にとっては目新しい授業で刺激になったようである。12週の授業で、25名の学生がデータベース入力力で延べ154の英文を投稿している。つまり、一人平均で6編の英文を投稿したことになる。Weblogシステムを導入したのが、12週の授業のうち半分を消化してからの導入になったため、決して多くの編数とはいえませんが、積極的に利用していた。

このシステムをきっかけに、米ETS (Educational Testing Service) という機関が製作・運営しているCriterionという英作文 (英文エッセイ) 評価システムにチャレンジさせることにした。CriterionはTOEFL (The Test of English as a Foreign Language) というアメリカ留学のための資格検定試験のエッセイ・テストを前提に作られており、本学の英語基礎クラスの学生にとっては、多少敷居の高いものであった。しかし、全員とはいかないまでも高いモチベーションを持っている学生にはよい刺激になると考えられた。筆者が受け持っている学生の数名がチャレンジし、6点満点の3点レベルの英文を書いていた。

このCriterionというシステムは、教授者がエッセイのテーマと期間を設定し、設定した期間内であれば、何度でもエッセイを書き直し、より高い点を目指して、英文を書き替えることができる。書いた英文について、パラグラフ・ライティングの側面からシステムが自動で評価し、点数とともにコメントを返すことになっている。学生は作文例を参照することができ、文章構成、語彙の繰り返し、トピック・センテンスの有り無し、文法的な項目などについて、短時間に自動で評価されるので、そのコメントや分析を調べれば、学生自身でどこが弱いのかをチェックできるものである。また、インストラクタ (教授者) が、学生の答案を管理でき、自動の評価以外にコメントを書き加えることができる。

本研究では、Criterionに関しては十分な準備期間を取ることができず、Criterionを必須にすることなく進めたので、学生が使いこなすところまではいたらなかったのが残念である。このシステムを中心に据え、テーマをあわせて学生に作文させ、自動のチェックを繰り返して、学生自らの弱点の認識の上で、英作文力の向上を目指すべきだったと反省している。

#### IV 研究成果

授業後の自己評価アンケートに、「コンピュータを使った授業で、面白く興味がわいた。」「ほかの学生の英文を読むことができ、参考になった。」また、「ほかの学生の考えがわかって面白かった。」「授業中の作業があり、退屈な授業ではなかった。」など、好意的なコメントが数多く寄せられた。今回はパイロット的な研究であったが、概ね良い結果が得られたと考える。

学生たちが選ぶ新聞記事の内容も真摯なものが多く、社会問題について強い関心があることがわかった。学生一人ひとりが自ら関心のある問題を選び、真摯に意見を書いていて、感動させられるものもあった。英文を作る上での文法上の間違いや語彙の貧弱さはあるものの意見構築力は高い能力を備えていると考えられる。実際、授業が進むにつれて、学生の英文の量がだんだんと増えていく傾向が見られた。また、意見構築力の個人差により、英文パラグラフの構築についても学生格差がみられたが、英文の量が多くなるにつれ、大半の学生のパラグラフ構成力に向上がみられた。相関関係の研究は本研究の主たる目標ではなかったので、詳しく分析してはいないが、印象でいえば日本語による意見構築力が英作文にも大きく影響しているように思える。



授業最終のブックレポートの題材として学生が選んだ内容は多岐にわたっていたが、ジェンダー論や国際紛争論、英語教育、戦争論など真剣に考えなければならないものが目立った。しかも、その本に関する学生の意見も通り一遍のものではなく、実体験を交えたすばらしいスピーチ原稿になっていた。

Criterionに関しては、必修として課した課題ではなかったもので、実際にチャレンジした学生が数名にとどまったが、取り組んだ学生の感想は、「点数がすぐにわかるので、やる気が出る。」「問題点を指摘されているところがよい。」など好印象であった。

## V まとめ

本研究では、Weblogを利用した英作文指導に主眼を置き、多様な授業への応用を考え、実践してきた。その結果、このようなシステムを英作文授業に応用することは効果があるという結論に達した。

その理由は、（１）様々なシステムを効果的に組み合わせることにより、学生のモチベーションを維持することに役立つこと。（２）自らの英文を公開することにより、他者からの刺激を受け、よりよい英文にしようとする向上心を駆り立てることになること。また、（３）よりよい意見を構築しようとする直接的には英語とは関わりがないが、コミュニケーションという観点からいうと非常に重要な視点を学生が持つことができることなどがあげられる。

但し、学生は自分の英作文を書くことに没頭していて、ウェブ上でのコミュニケーション活動は筆者が期待したほど行われなかった。授業の最初の段階からWeblogシステムを導入していたら、このような活動についてもっと指導できたのではないかと考えられ、今後の課題の一つである。

限られた授業時間のため、システムの使い方指導に十分な時間を割けなかった。そのため、３つ（必須は２つ）のウェブ上のシステムを使い、一方ではノートの提出と学生に混乱を与えた点は否めない。もう少し整理した形で、学生に提示する必要があった。この点は反省点であり、今後の改善が必要である。

現状において、様々な問題点はあるが、Weblogの授業利用は一考の価値がありそうである。今後どのような利用法があるのかについて、早急に実践を通して研究していく必要がある。システム構築の容易さは、本研究で実証済みであり、学生の反応から方向性は間違っていないことも検証できた。本研究を足がかりによりよい実践方法について議論を深め、さらによりよい授業の構築に努力していきたいと考える。

参考文献

1. Blood, Rebecca (2003)、 「ウェブログ・ハンドブック」、MYCOM (毎日コミュニケーションズ)。
2. Leuf, Bo、Cunningham, Ward (2002)、 「Wiki WayコラボレーションツールWiki」、ソフトバンクパブリッシング。
3. Park, Kwang-Heui (2001)、 「TOEFLテスト必修ライティング攻略ゼミ」、株式会社ピアソン・エデュケーション。
4. 井上ケイタ (2003)、 「ウェブログで始める簡単スペシャルWebサイト」、秀和システム。
5. 伊藤ケリー (2002)、 「英語パラグラフ・ライティング講座」、研究社出版。
6. 植田一三 (2005)、 「発信型英語スーパーレベルライティング」、ベレ出版。
7. 黒川裕一 (2002)、 「こなれた英文を書く技術」、ベレ出版。
8. 新納浩幸 (2004)、 「入門RSS」、MYCOM (毎日コミュニケーションズ)。
9. 富岡龍明 (2003)、 「論理思考を鍛える英文ライティング」、研究社。
10. 高井守+インフォリング (2004)、 「XOOPSコミュニティサイト構築ガイド」、技術評論社。
11. 橋内武 (1995)、 「パラグラフ・ライティング入門」、研究社出版。
12. 平田大治 (2003)、 「Movable Typeで今すぐできるウェブログ入門」、インプレス。

補記

本稿の研究は、平成16年度(財)宮崎学術振興財団の研究助成をうけて行ったものである。